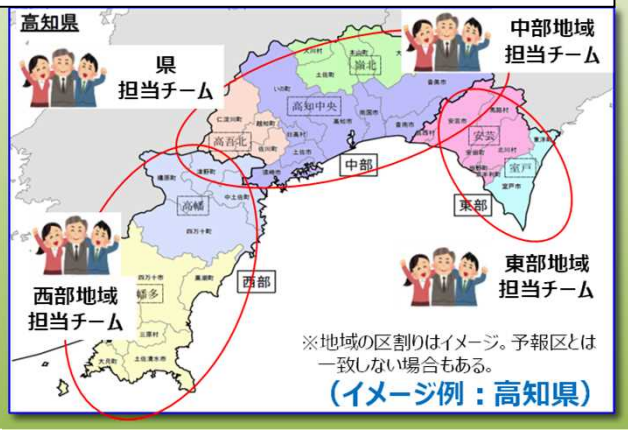
気象庁(気象台)のもつ危機感を効果的に伝えていくための取組 【実施中】

「あなたの町の予報官」の新規配置

府県内の地域毎に「あなたの町の予報官」を配置し、平時から「顔の見える関係」を構築し、地域防災力の向上に寄与。

◆都道府県内を複数の市町村からなる「地域」に分け、その地域毎に3名程度の「担当チーム」を編成

◆担当チームの設置により、市町村に寄り添い、担当者同士の緊密な関係の構築が可能

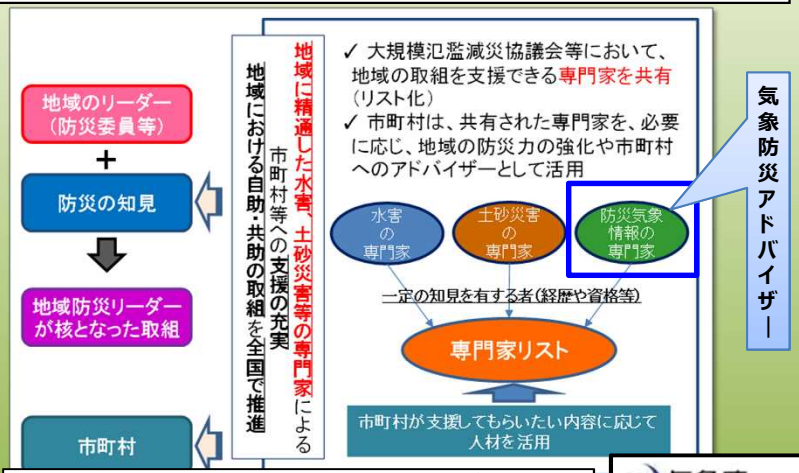


「気象防災ワークショップ」の一層の推進

自治体職員等が**防災対応を実践的に学習できる「気象防災ワークショップ」の取組を一層推進。**（年間600市町村が参加できるよう実施）

「気象防災アドバイザー」の一層の活用

気象防災の専門家として、普及啓発活動など**自治体の取組の支援**を推進。



平成30年７月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）資料（H30.12.26内閣府公表）より抜粋

気象庁(気象台)のもつ危機感を効果的に伝えていくための取組

防災知識の普及・啓発や緊急時の情報発信へのSNSの活用 【７月頃から開始】

- 情報拡散効果の高いSNSを積極的に活用することにより、平時から防災気象情報の解説や気象防災ワークショップの紹介など防災知識の普及・啓発に資する情報を発信するとともに、緊急時においては記者会見の内容など気象庁の持つ危機感を効果的に伝えていく。

＜緊急時＞

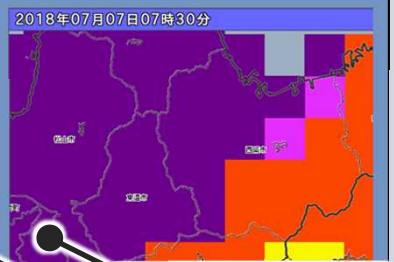
イメージ

気象庁 @JMA_kishou フォローする

福岡県と佐賀県、長崎県に特別警報。記者会見を開催して、#大雨 に最大級の警戒を呼びかけました。最新の情報を利用してください。
https://www.jma.go.jp/jma/bosaiinfo/rain_portal.html

西条市と東温市を中心に、過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する極めて危険な状況となっています。土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に移るなど、躊躇なく適切な防災行動をとってください。

既読 16:29



- 記者会見や報道発表の内容
- 特別警報や台風情報
- 全般、地方、府県気象情報
- 地域に密着した呼びかけ

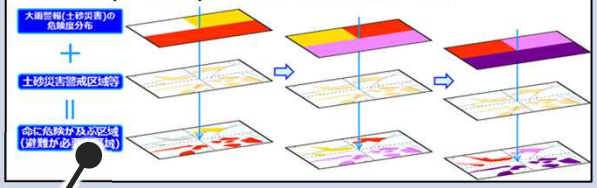
図・動画の活用

＜平時＞

イメージ

気象庁 @JMA_kishou

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は早めの避難が重要です。大雨警報（土砂災害）の危険度分布において、高齢者等の方は遅くとも「警戒」（赤色）が出現した時点で、一般の方は遅くとも「非常に危険」（薄い紫色）が出現した時点で、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ速やかに避難することが大変重要です。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/doshakeikai.html



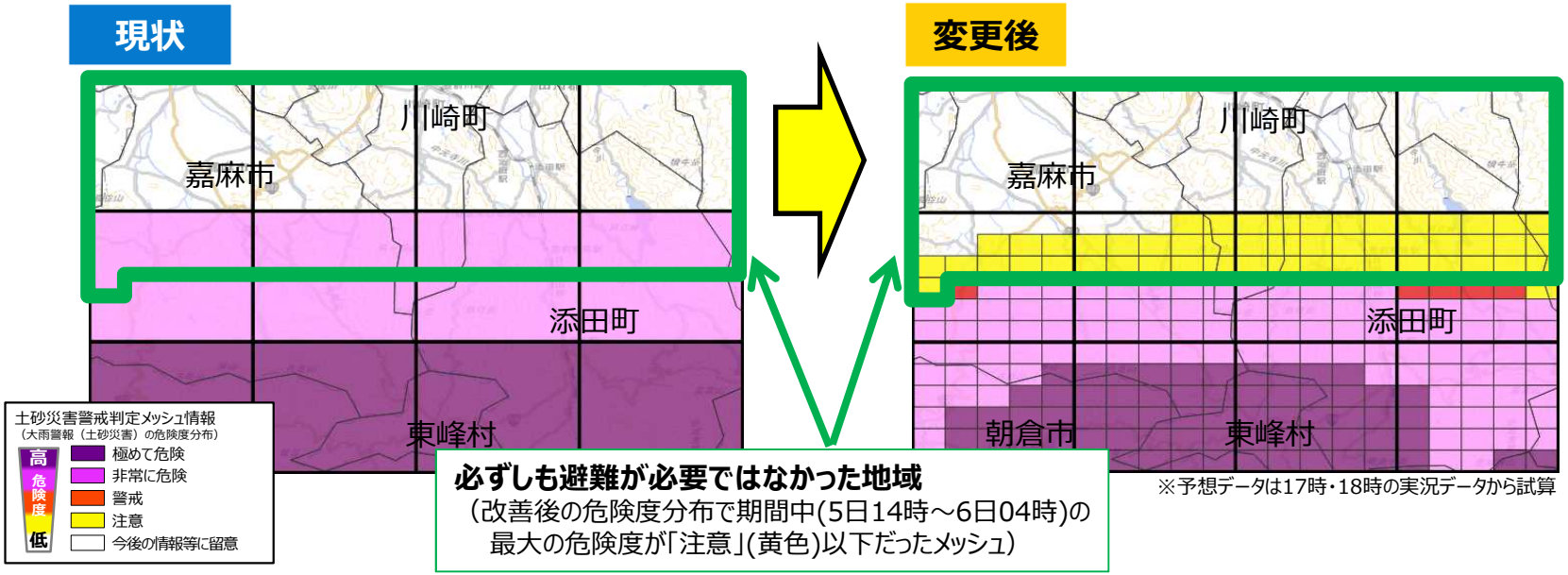
- 災害発生のメカニズム
- 防災気象情報の読み解き
- 防災に関する知識の普及

防災気象情報をより一層活用しやすくするための取組

土砂災害の「危険度分布」の高解像度化 【６月下旬から開始】

➢ 市町村が避難勧告等の判断により一層活用できるよう、土砂災害の「危険度分布」を現状の5kmメッシュから1kmメッシュに高解像度化。

土砂災害の「危険度分布」の高解像度化 **平成29年7月九州北部豪雨における例**（平成29年7月5日16時）



現行の土砂災害の「危険度分布」は解像度が粗く(5kmメッシュ)、必ずしも避難が必要でない住民にまで避難の必要性を伝える情報となっている場合がある。 ※ なお、一部の都道府県では1kmメッシュ情報を公開している。

警戒避難への活用

① 市町村の避難勧告等発令判断に資する情報としての活用
（例） 都道府県が市町村の避難勧告を発令する単位で危険度を表示することによって、市町村が適切に地域を絞り込んで避難勧告等を行うことを支援。

② 住民等の避難するマインドを向上させる情報としての活用
（例） 住民等が自分の今いる場所の危険度をより適切に把握できるよう、自宅等が容易に特定できる詳細な地図と重ね合わせ。

防災気象情報をより一層活用しやすくするための取組

「危険度分布」の希望者向け通知サービス 【７月以降、順次】

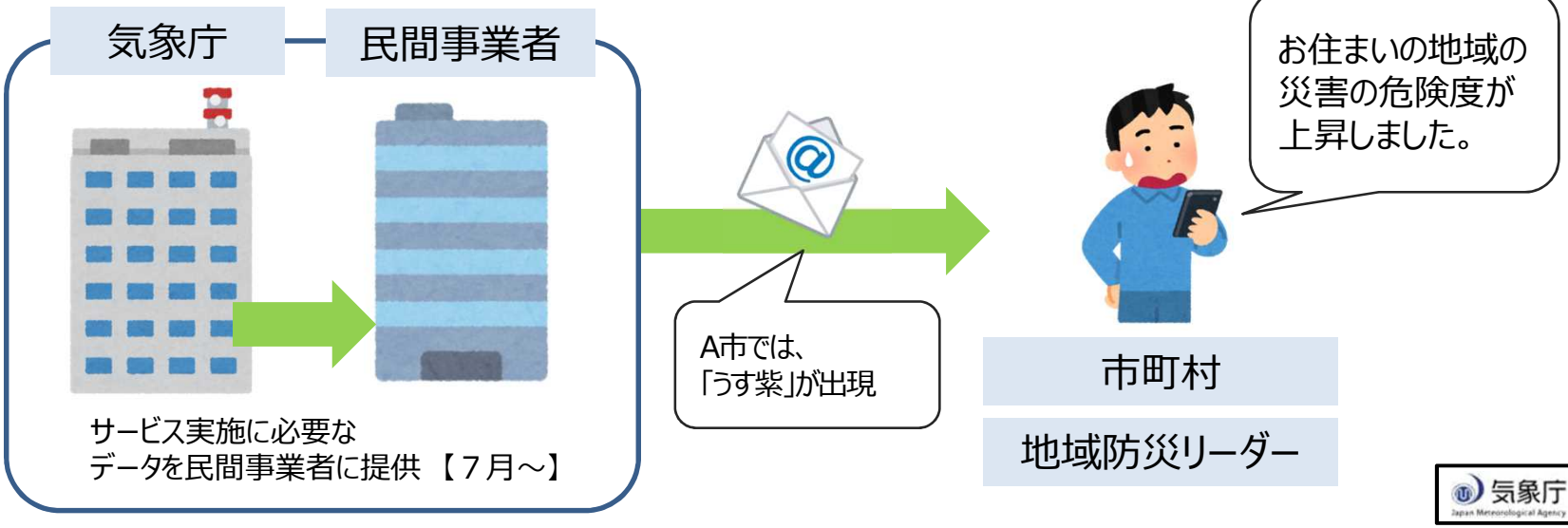
➢ 自分のいる地域の危険度の高まりにすぐに気付くことができるよう、民間事業者の協力を得て、電子メールやアプリ等で希望者に危険度の変化を通知するサービスを展開。

提供サービスの概要（一案）

※通知サービスの具体は、今後、民間事業者が気象庁の協力のもとで検討
※実施時期は、準備が整った民間事業者から順次開始

- 自分の地域のことと認識できる市町村単位で10分毎に危険度の変化を判定。
- 土砂災害・浸水害・洪水の危険度、及びそれらの最大の危険度の４種類から、通知を希望するものを選択可。
- 危険度分布における危険度に加えて、警報等による危険度も加味して最大の危険度を通知。

民間事業者の協力を得て、電子メールやアプリ等で危険度の変化を通知



警戒レベルの運用に係る当面の対応 【5月29日以降、順次】

関係機関と連携した警戒レベルの周知等 【随時】

- 地方気象台による出前講座や自治体への気象解説、気象庁ワークショップ等、様々な機会を捉え、周知を強化
- 気象防災アドバイザーや気象キャスター等への周知強化
- その他、緊急時の記者会見や自治体への気象解説等で警戒レベルの解説もあわせて実施　等

警戒レベルに関するチラシ
（内閣府(防災担当)ホームページ）

土砂災害警戒情報・指定河川洪水予報の発表情報への相当する警戒レベルの記載 【5/29から実施】

自治体、事業者等の情報利用者向け

例

○○県土砂災害警戒情報 第3号

令和元年x月x日 xx時xx分
○○県 ○○地方気象台 共同発表

【警戒対象地域】
○○市 ○○市＊ ○○市＊ ○○市＊ ○○市

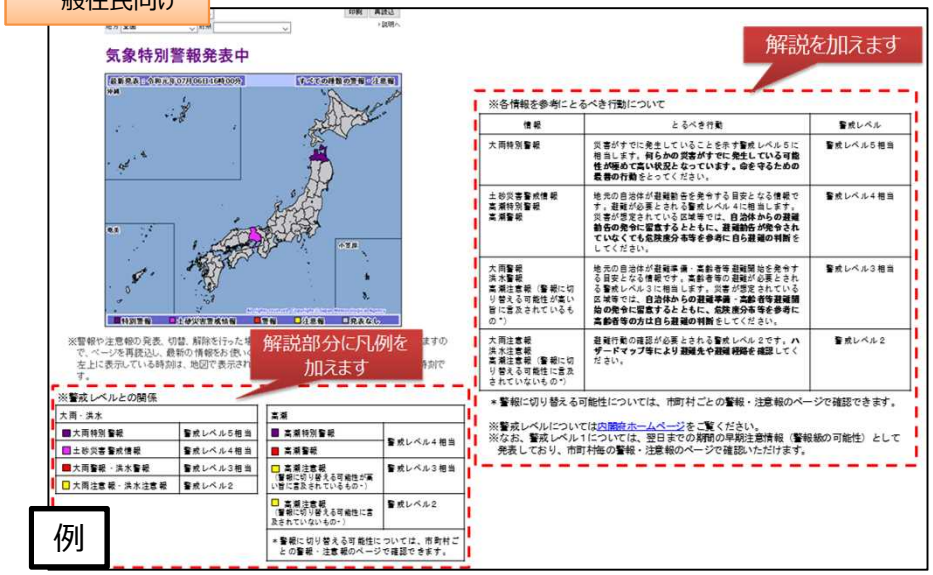
＊印は、新たな警戒対象となった市町村を示します。

【警戒文】
<概況>
降り続く大雨のため、土砂災害警戒区域等では命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況です。
<とるべき措置>
避難が必要となる危険な状況となっています【警戒レベル４相当情報［土砂災害］】。崖の近くや谷の出口など土砂災害警戒区域にお住まいの方は、市町村から発令される避難勧告などの情報に留意し、少しでも安全な場所への速やかな避難を心がけてください。
<補足情報>
市町村内で危険度が高まっている区域は、○○県や気象庁のホームページで確認できます。
○○県「土砂災害に関するメッシュ情報」、気象庁「大雨警報（土砂災害）の危険度分布」

土砂災害警戒情報と避難が必要なことを示す警戒レベル４相当情報との関係がよりわかりやすくなるよう、<とるべき措置>欄の説明を充実します。

気象庁ホームページの防災気象情報の凡例や解説に、警戒レベルに係る記述を追加 【6月中までに順次実施】

一般住民向け



例

大雨警報・注意報等のXML電文の利用者向けに警戒レベルに対応したスタイルシートを提供 【5/29から実施】

自治体、事業者等の情報利用者向け

例

町　［発表］大雨（土砂災害），暴風警報　［継続］波浪警報　雷，洪水，高潮，濃霧注意
［前回発表警報等］大雨注意報，強風注意報，波浪警報，雷注意報，洪水注意報，高潮注意報，
警報等の発表切替の可能性
※３０日昼過ぎまでに洪水警報に切り替える可能性が高い　：洪水警報
※３０日昼過ぎまでに高潮警報に切り替える可能性が高い　：高潮警報
特記事項　土砂災害警戒　浸水注意
付加事項　うねり　竜巻　ひょう
［警戒レベル］
土砂災害 警戒レベル３相当（高齢者等の避難が必要とされる状況）
洪水　警戒レベル２（避難行動の確認が必要とされる状況）
高潮　警戒レベル３相当（高齢者等の避難が必要とされる状況）

大雨警報等のXML電文を確認し、市町村毎に相当する警戒レベルの内容を付記するためのスタイルシートを提供。

大雨特別警報の改善に係る取組（周知・広報の強化と精度向上）【順次実施】

- 大雨特別警報については、位置づけや役割の周知が十分でないことから、政府広報の活用や研修や講習会等、様々な機会を捉えてその周知・広報を強化していくとともに、大雨特別警報の発表可能性がある場合には、緊急記者会見で言及するなど、危機感を効果的に発信。
- 短時間の局所的な豪雨において、多大な被害の発生にも関わらず、特別警報の発表に至らない事例等があるため、より的確な発表ができるよう、新たな技術を用いて発表指標を改善。

政府広報の活用による周知強化（5/18,19実施済）

政府インターネットテレビ
「徳光・木佐の知りたいニッポン！～命を守るために　大雨への備え」
https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg18907.html

大雨特別警報の発表指標の改善

※以下の指標を満たすと予想され、さらに雨が続く場合に発表

現行の指標	新しい指標
○ 短時間指標 ① 3時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に10格子以上まとまって出現。 【課題】 約５年間の運用実績を検証したところ、多大な被害発生にも関わらず発表に至っていない事例等がみられる ○ 長時間指標 ② 48時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に50格子以上まとまって出現。	＜改善ポイント①＞ 指標を、50年に一度の降水量等から、危険度分布で用いている災害発生との関連の深い指数そのものの値に変更し、その基準値については地域の災害特性を踏まえ都道府県毎に関係機関と調整して設定。 ⇒ **重大な災害発生の蓋然性が高まった場合に、より適切に発表できるように。** ＜改善ポイント②＞ 発表判断に用いている格子間隔を、5km格子から1km格子に変更。 ⇒ **局所的な現象でも、より適切に発表できるように。** 今後、都道府県ごとに関係機関と調整して新指標を設定し、準備が整ったところから、順次、運用開始予定。

改善

※　当面、短時間指標の見直しから着手し、長時間指標についても同様の技術による改善に向けて検討を進める。

【参考】 警戒レベルと防災気象情報について

- 各種の防災情報について、発表された情報からとるべき行動を直感的に理解しやすいものとし、住民の主体的な行動を促すため、５段階の警戒レベルと防災気象情報との関係を明確化。
- 今後、気象庁ホームページの凡例等に相当する警戒レベルの付記やその解説等の追加等、可能なものから順次着手としていくとともに、警戒レベルの効果的な運用に向けて、関係省庁とも連携し、その周知に積極的に取り組む。

警戒レベル	住民が取るべき行動	住民に行動を促す情報	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる情報（警戒レベル相当情報）		
		避難情報等	洪水に関する情報		土砂災害に関する情報
			水位情報がある場合	水位情報がない場合	
警戒レベル５	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。	災害発生情報※1 ※１可能な範囲で発令	氾濫発生情報	（大雨特別警報（浸水害））※3	（大雨特別警報（土砂災害））※3
警戒レベル４	・指定緊急避難場所等への立退き避難を基本とする避難行動をとる。 ・災害が発生するおそれが極めて高い状況等となっており、緊急に避難する。	・避難勧告 ・避難指示（緊急）※2 ※２緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令	氾濫危険情報	・洪水警報の危険度分布（非常に危険）	・土砂災害警戒情報 ・土砂災害に関するメッシュ情報（非常に危険） ・土砂災害に関するメッシュ情報（極めて危険）※4
警戒レベル３	高齢者等は立退き避難する。 その他の者は立退き避難の準備 をし、自発的に避難する。	避難準備・高齢者等避難開始	氾濫警戒情報	・洪水警報 ・洪水警報の危険度分布（警戒）	・大雨警報（土砂災害） ・土砂災害に関するメッシュ情報（警戒）
警戒レベル２	避難に備え自らの避難行動を確認する。	洪水注意報 大雨注意報	氾濫注意情報	・洪水警報の危険度分布（注意）	・土砂災害に関するメッシュ情報（注意）
警戒レベル１	災害への心構えを高める。	早期注意情報（警報級の可能性）			

※３　大雨特別警報は、洪水や土砂災害の発生情報ではないものの、災害が既に発生している蓋然性が極めて高い情報として、警戒レベル５相当情報［洪水］や警戒レベル５相当情報［土砂災害］として運用する。ただし、市町村長は警戒レベル５の災害発生情報の発令基準としては用いない。

※４「極めて危険」については、現行では避難指示（緊急）の発令を判断するための情報であるが、今後、技術的な改善を進めた段階で、警戒レベルへの位置付けを改めて検討する。